



『間質性肺炎って何!?!』



しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



前回は一般的な感染症の肺炎についてご説明しましたが、今回は間質性肺炎についてご説明します。感染症の肺炎は、空気中の酸素と血液中の二酸化炭素の交換を行う肺胞(はいほう)に細菌やウイルスなどが感染して炎症を起こします。一方、間質性肺炎は、肺胞の壁の部分である間質(かんじつ)に炎症が起こる病気です。呼吸で肺に送り込まれた酸素は、肺胞から間質を通して毛細血管に取り込まれますが、間質に炎症が起こり間質が厚く硬くなると(線維化)、酸素の取り込みが上手くいかなくなります。さらに進行すると肺胞が壊れ、空気を十分に吸い込めなくなります。

間質性肺炎には、じん肺(粉塵やアスベストなど)・薬剤性・膠原病(関節リウマチや強皮症など)・過敏性肺炎(鳥やカビなどへのアレルギーで起こる)・ウイルス性肺炎など原因が特定できるものもありますが、明らかな原因を特定することのできないもの(特発性間質性肺炎)が多く、遺伝的素因や環境因子などが複雑に関係していると考えられ、なかでも“喫煙”が発症リスクを高めると考えられています。

自覚症状は、初期には多くは無症状ですが、痰を伴わない空咳(乾性咳嗽)や坂道や階段を上がるときの息苦しさ(労作時呼吸困難)が代表的です。病気が進行すると日常生活でも自覚する様になります。また、診察の際の聴診で、「パチパチ」「バリバリ」という音が聞こえるのも特徴です。

診断は、胸部レントゲン検査・胸部CT検査・血液検査・呼吸機能検査・気管支鏡検査・肺生検など総合的な判断で行われます。治療は、病状にあわせてステロイド・免疫抑制剤・抗線維化薬・呼吸リハビリテーション・在宅酸素療法・肺移植などが検討されます。

病状の進行や治療に対する反応性は個人差があり、中には数日から1か月の間に急激に呼吸状態が悪化する“急性増悪”というものがあり、注意が必要です。新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症をきっかけに急性増悪を認めることもあるため、手洗いやうがい、ワクチン接種など感染症予防対策をすることも大切です。



お知らせ

8月のお盆休みを **8月11日(金)~15日(火)**までとさせていただきます。ご迷惑をお掛けして大変申し訳ございませんが、宜しくお願いいたします。